足立区立花保小学校
学校長 半田 英雄 様

足立区立花保小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 齋藤 太
評価部長 野間 一夫

平成29年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

(1) 重点的な取組－1 学力向上

区の学習定着度調査（国語・算数）における通過率ならびに正答率が区平均を大きく上回ったことは大いに評価できる。学年会での個票の分析と対策を定期的に行い、九九検定、漢字検定の実施と免許証の発行、習熟のための復習授業等、様々な方法での取組みを進めた結果であると思う。教員の熱意と努力、それに応えた児童の頑張りの賜である。さらなる向上を期待したい。

(2) 重点的な取組－2 保育園・幼稚園・中学校との連携

地域の保育園・幼稚園との交流において、円滑に小学校生活をスタートすることができるように「小学校スタートカリキュラム」を実施していることはもとより、保護者の入学前の不安を払拭するための校長講演を行っている。これらは小学校進学への期待感をさらに高める上でひじょうに効果的であると思う。また、花保中学校との連携教育を継続的に進め、学力定着度の情報交換や授業研究の相互実施等により授業改善に寄与できていることは評価できる。

(3) 重点的な取組－3 教師の指導力向上

管理職による学年面接や個人面接、「若手教員養成塾」の実施により教員の資質向上を促すとともに、管理職や教科指導専門員の指導と助言をもとに授業評価や研究授業を行い、指導力、授業力の向上に大きな成果を上げられた。さらに児童の授業満足度や保護者の学校評価が90%と昨年に引き続き目標を達成し、保護者授業参観アンケートの「改善を要する」が0%であったことは、高く評価できる。

(4) 重点的な取組－4 心の教育の充実

「児童一人ひとりの心の成長」を目標に掲げ、全校朝会での講話と表彰、Q U調査、ライフスキル教育からの発展である「リーダーインミー」の導入をはじめ、いじめ防止に関わる児童会活動や“サンクスウィーク”の実施、“あいさつボランティア隊”の活躍や代表委員会の“愛着大作戦”行動等の花保小独自の多くの取組みを通して、規範意識や自己肯定感を高めることができたことは評価できる。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

区が行った学習意識調査では、昨年5項目中4項目で区平均を下回っていたが、今年度は2項目に減った。徐々に意識の変容が見られる。ただし、下回ったように見える家庭学習と読書の2項目については、今年度の質問文を「児童は…している」から「お子さんは…している」というように保護者に向けて我が子を限定した評価にしたことが原因と考えられる。集計により顕著になったこれらの家庭教育に関わる面を、挨拶や言葉遣いなどの基本的な生活習慣も含めてより一層家庭に啓発をしていく必要がある。

3. その他

開かれた学校づくり協議会は、今年度も学校・児童の応援団としてあいさつボランティア、夏季学習教室の赤ペン先生、生活科・社会科の講師として授業への参加、漢検のお手伝い等、学校の教育活動を支えることができた。また、PTA活動にも積極的に関わり、「昔遊び」や七輪で

の「マシュマロ焼き」等で楽しく活動することができた。花ほっ子クラブでは、「木工体験」「親子体力測定」「風船バレー」「マイチョコ作りと茶道体験」を実施し、多くの児童と保護者が参加し楽しむことができた。さらに、花保小と花保中合同の開かれた学校づくり協議会小中連携家庭教育部会では、両校の校長による「ハナトーク」を実施し、小中連携の経緯や成果と課題の話を基に、

地域と家庭 の関わりをともに考える良い機会となった。今後も推し進めていきたい。

4. 備考

歯の治療率が年々高まってきている中、本校は足立区の「フッ素塗布モデル校」（区内10校）に指定された。1, 2年生の希望者に永久歯フッ化物塗布を行ってきていることは、虫歯予防の推進に大変効果的である。

また、オランダとの国際交流拠点校、文教大学との連携強化推進校、東京オリンピック・パラリンピック2020競技（ゴールボール）応援校にも選出された。特に東京オリンピック・パラリンピック大会に向けてのオランダとの連携プロジェクトが始動し、花畑エリアの区立小中学校と都立特別支援学校との交流事業が継続的に行われることが決まった。このことは本校ばかりでなく本ブロック地区のイメージアップにもつながっている。

以上のことから、本校は足立区のみならず東京都の教育委員会からも高く評価されている証である。

なお、今年度より学校改革プログラムである「リーダー・イン・ミー」（7つの習慣）を導入し、教員の意識改革をもとに、児童へのより良き指導を図ろうとしていることは、30年度の花保小学校をさらに発展させる原動力となるはずである。